

第2回独立行政法人農業者年金基金契約監視委員会議事概要

開催日	平成23年3月9日（水）
会場	独立行政法人農業者年金基金 特別会議室
出席委員	委員長：和田 義博（和田義博会計士事務所 公認会計士） 委員：竹川 忠芳（竹川忠芳法律事務所 弁護士） 委員：石井 勇人（社団法人共同通信社 編集委員兼論説委員） 委員：中村 眞純（独立行政法人農業者年金基金 監事）
議題	平成22年度契約の点検結果 （第1回契約監視委員会点検を受けた平成20年度契約のフォローアップ等） ① 競争性のない随意契約として点検を受けた契約の平成20～22年度実績及び23年度見込み 15件 ② 1者応札・1者応募として点検を受けた契約の平成20～22年度実績及び23年度見込み 6件 ③ 複数年契約の状況 4件
議事概要	それぞれの契約について、随意契約等の状況と今後の方針等について基金から説明された後、郵便コストの削減、システムの見直しの方向、新システムの調達方法、予定価格の算定（システム開発及び資金調達支援業務）、委託先との人的関係等について質疑が行われ、随意契約は真にやむを得ないものであること、1者応札、1者応募に対する見通し方針等について了承された。 なお、主な質疑応答は次のとおり。 1 議題①について ・契約名称：事務室の清掃業務 質問：一般的な清掃業務の平均価格と比較して高くないか。 回答：当基金の清掃単価は、物価資料によれば、東京地区の平均価格並みとなっている。 ・契約名称：後納郵便料 質問：郵便コスト削減のため、どのような工夫をしているのか。 回答：業務受託機関に対し郵送する場合には、何種類かのものを別々に郵送するのではなく、まとめて一つの封筒で送付することとしており、また、大口・法人向け割引や送達日数に数日の余裕を承諾する等による割引をできるだけ活用するようにしている。

議事概要

- ・ 契約名称：基幹業務記録システムに係る保守運用業務及び電子情報提供システムに係る保守運用業務

質問：システム改善では、業者の入札への参加のしやすさも考慮するのか。

また、システム開発とその後の一定期間の保守運用業務を一括して調達することについて、どう考えているのか。

回答：これまでのように過去のシステムを引き継いだ上で改修をするやり方だと実績のある業者が有利となるが、今回は、改修というより刷新なので、複数の業者が参入しやすい環境になると考えている。

また、独立行政法人には、5年毎の中期計画期間の区切りがあるため、計画期間を跨ぐような複数年度契約が可能であるかについて、いろいろなところと相談しながら最終的な調達の形を決めていかなければと考えている。

質問：システムの保守運用業務の参加要件については、既に十分緩和しているため、新たな緩和がなかったということか。

回答：既に、業者の参加要件として、最低限具備してもらいたい内容の必須要件を2項目に絞り込み、それ以外は望ましい要件として加点要素に変更してあるので、これ以上の必須要件の緩和は難しい。

2 議題②について

- ・ 契約名称：電子情報提供システムの機能追加開発

質問：22年度のシステムの機能追加開発で、予定金額よりかなり安く調達できたことをどう評価すべきか。

回答：今回の開発内容は、多くの業者が対応できる可能性があるもので、一般論としてデータの信憑性であるとか確実性を持たせる上で必要となる工数をベースに必要な費用を業者から聞き取りをして予定価格を設定した。

結果的にかなり安い価格を提示したところが落札し、競争性という点から、非常に格安のものできており、一般的な労務提供のような契約においては、デフレ傾向が顕著にでている。

- ・ 契約名称：基幹業務記録システム及び電子情報提供システムの業務改善に係る機能追加開発

質問：業務・システム改善の中で現在のシステムの問題点の洗い出しをしている業者が新システムを作ることになるのか。

回答：設計する業者と開発する業者は設計・施工分離の観点から別にする予定。

<p>議事概要</p>	<p>3 議題③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約名称：資金調達のための支援業務委託契約（22～27年度の6ヶ年契約） <p>質問：資金調達のための支援業務で予定価格と落札価格の違いについて説明をもう一度。</p> <p>業者間の入札価格にとっても大きな乖離があったが、そのことで不利益を被ることはないのか。</p> <p>また、入札にあたり仕様書に問題はなかったのか。</p> <p>回答：今回の契約の内容は、業者のサポートの下で資金の調達は基金自らが行き、定期的な利払い等の契約の管理事務を委託するというもの。</p> <p>このような契約形態の実績が乏しく、調達する資金規模が大きいため、昨年の実績をベースとして予定価格を設定した。</p> <p>また、入札金額に幅がでる結果となったが、その要因としては、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 今の金融環境から、シェア確保に向けた「実績作り」を重視した価格設定を行ったのではないか、 ② 事務取扱手数料のみを見ると大きな乖離とはならず、必要な額が調達できなかった場合の引受責任を負担しないことの受け止め方に差があったのではないか、 <p>等が影響していると考えている。</p> <p>4 その他</p> <p>質問：契約先・業務委託先との人的関係は。</p> <p>回答：22年度において人的な関係のある契約は一切ない。</p> <p>質問：農業者年金制度をとりまく状況は。</p> <p>回答：〔説明内容 略〕</p>
-------------	--